



R 7年度 おやこ教室 乳児・幼児学級 心を育む絵本

2025年7月23日(水)



鳥取県子ども読書アドバイザー、山田由紀さんを講師に「絵本は親子の触れ合いのひととき・コミュニケーションにつながるツール」と題し、絵本の楽しさ、読み聞かせの大切さをお話していただきました。

なぜ読み聞かせが「よい」といわれるのか・・・大きな理由の一つとして山田さんは「幼い時の読み聞かせが心の根っことなり大人になっても心のふるさとになる」と話されました。真剣に耳を傾けて聴いているママ、パパの心にしっかり届いたと思います。



自宅では家庭文庫を、保育園などでは絵本の読み聞かせをされている山田さん。読み聞かせの実演をしながら、その絵本にまつわるエピソードも紹介されました。

例えば、子どもは作者が意図的にした色使いや絵の変化などをみつけるのが得意・・・「子どもは絵本を絵で読みます」だから「大人が気づかないところに気づく」そうです。今までたくさんの子どもたちに読み聞かせた経験があるからこそ、たくさんのエピソードも生まれるのだと思いました。

また、絵本はインターネットの画像と違い、「美しい言葉」と「きれいな絵」を何回もゆっくりと見られるところや、生の声で聞けることも「よい」と言われています。



☆山田さんからのメッセージ☆

- ・子どもの「読んで！」は一緒にいたいサイン。読み聞かせは何歳まででも続けてくださいね。
- ・子どもは「繰り返し」、「同じ」が大好き。安心感(心の安定)が生まれ、いろんな想像力を働かせて聞いています。同じ本を「読んで！」と持ってくる時は、繰り返し味わいたい「かけがえのない一冊」に出会えたということです。